

クリーン開発と気候に関するアジア太平洋パートナーシップ(APP)
第五回政策実施委員会(PIC)
－ 概要と評価 －

2008年5月20日
日本政府代表団

I 会議概要

- (1) 日時: 2008年5月19日(月)～20日(火)
- (2) 場所: 米国・シアトル
- (3) 参加者: 我が国をはじめ、豪州、カナダ、中国、インド、韓国及び米国の7ヶ国から、外務、エネルギー及び環境などの政府関係者及び民間関係者が出席。我が国からは、小町外務省地球環境問題担当大使、本部経済産業省大臣官房審議官、島田環境省国際調整官、国土交通省担当官及び自動車業界関係者他が出席した。各国からの主な出席者は別紙のとおり。

II 主要議事と結果

- (1) 我が国から「道路交通セクター」タスクフォースの設置を提案したところ、本年秋に予定されている次回PICよりも前に、我が国がワークショップを主催し更に検討を深めることで合意された。
(注1) APPの既存の8タスクフォースに「道路交通分野」が加わると、7ヶ国のCO₂総排出量に占める「8+1」セクターの合計は、約80%を占めるに至る。
(注2) 我が国の提案内容:
道路交通分野のCO₂排出削減には、自動車の燃費改善のみならず、燃料対策、交通流対策、ユーザー対策に総合的に取り組むことが効果的。同タスクフォースにおいては、各国がこうしたベストプラクティスを持ち寄り、共有することで、各国の道路交通分野の排出削減を目指す。
- (2) カナダは次回PICを本年秋に西海岸で、豪州は2009年前半の次々回PICを、中国は2009年に予定されている閣僚会合を、それぞれホストする旨表明した。
- (3) 8つのタスクフォースの議長等からフラッグシッププロジェクト^(注)等の進捗状況について説明し意見交換を行った。
(注3) フラッグシッププロジェクトとは、各タスクフォースが実施しているプロジェクトの中で特に象徴的なプロジェクトであって、昨年秋に開催された閣僚会合で承認された18のプロジェクト。
- (4) 我が国が議長を務める鉄鋼及びセメントのタスクフォースについては、ベンチマークを設定しつつ技術普及を図るアプローチの重要性を説明。前者(「ベンチマーク」)に関しては Best Available Technologies の特定、データコレクション及びベンチマークの設定が具体的な活動であること、後者(「技術普及」)については、省エネ診断を中国及びインドに対して実施し、今後も継続実施することを強調。ベンチマークと技術普及をプロジェクトの両輪として進めている二つのタスクフォースの活動につ

いて、各国から肯定的な評価があった。なお、これまで空席であったセメントタスクフォースの副議長について、カナダが立候補したのに対し各国が同意し全会一致で承認された。

(5) その他

- ① アルミニウム・タスクフォースについては、先週、ケープタウン(南ア)で開催された会合における結果として、新たなベンチマークの設定や技術協力の進展状況について説明があった。
- ② 電気機器タスクフォースに係る議論の際、我が方より、電気冷蔵庫のエネルギー消費効率の測定方法の国際調和について、IEC(International Electro-technical Commission: 国際電気標準会議)の場でAPP7ヶ国が協力して対応している旨を補足説明。
- ③ 発電及び送電タスクフォースに関しては、我が国及び米国が中心となって取り組んでいるピアレビューの進捗状況について重点的に説明された。

Ⅲ 評価

- (1) 道路交通セクターについては、各国とも二酸化炭素の総排出量に占めるウェイトが高く、各国から重要性についての認識が表明された。今次会合において、議論が開始される道筋を得たことは成果であり、我が国が指向する「セクター別アプローチ」の推進に弾みを得るもの。ワークショップでの議論を通じ、当該セクターにおいて、官民パートナーシップのもとで実効的かつ実践的な取組がなされることが期待される。
- (2) 2009年に中国が次回閣僚会合をホストする等各国から会合主催の意思が表明されたことは、セクター別アプローチを実践しているAPP活動の来年以降の継続に対する積極的なシグナルとして受け止められる。
- (3) 我が国が議長を務める鉄鋼及びセメントタスクフォースについては、データ収集、将来指標の策定、省エネ診断の実施等、セクターにおける先駆的な取組が実践されている事例として、各国に評価された。今後も、セクター別アプローチの好例としプロジェクトを着実に前進させることが重要。
- (4) アルミニウム・タスクフォースも鉄鋼及びセメントと同様の取組を推進し、ケープタウン(南ア)で先週開催された会合での取組等が評価された。
- (5) 電気冷蔵庫のエネルギー消費効率の測定方法の国際調和について、IECの場でAPP7ヶ国が協力して取り組んでいる状況は、APPの好ましい事例の一つとして評価された。
- (6) 発電及び送電タスクフォースが実施しているピアレビューについては、技術普及のための有効な手段として評価された。